

2 1 世紀型コミュニケーション力に関する能力表および学習活動案の作成について

放送大学 教授 中川 一史

金沢星稜大学 教授 村井 万寿夫

熊本県立教育センター 指導主事 山本 朋弘

船橋市教育委員会 主査 秋元 大輔

キーワード：2 1 世紀型コミュニケーション力、小学校、能力表、学習活動案

1. 背景

PISA 調査や全国学力状況調査等において、我が国の子どもたちの論述力やコミュニケーション力が十分に身につけていないことが明らかになった。PISAとは、Programme for International Student Assessment の略で、OECD(経済協力開発機構)によって実施された「実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価するテスト」のことである。また、全国学力状況調査も、特にB課題においてPISA調査の内容をふまえて作成されていると推測できる。

平成20年に公示された小・中学校の学習指導要領においては、それらのことを勘案し、全教科・領域を通して言語活動を充実することが示された。それを受けて学習指導要領解説各教科編及び領域編には言語活動について例示されている。

国語科において「読む」「書く」「聞く・話す」の基本的な力を定着させるとともに、各教科等において情報を整理したり記録したり、相手に分かりやすく説明し議論したりするなどの学習活動を充実していくことが求められている。また、国語以外の教科においても、言語活動を充実する旨の表記がある。

例えば、「算数科新学習指導要領第4章指導計画の作成と内容の取扱い 2内容の取り扱いについての配慮事項(2) 考えを表現し伝え合うなどの学習活動」において、「(2) 思考力、判断力、表現力等を育成するため、各学年の内容の指導に当たっては、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなどの学習活動を積極的に取り入れるようにすること。」としている。

このように、国語科を核に教科・領域において言語活動を充実することによって論述力やコミュニケーション力を育成していくことがすべての学校に課せられているが、果たして、どれだけの学校・教師が上記のことを具体化する方略を持ったり学習指導をイメージしたりしているだろう。

さらに、論述力やコミュニケーション力を育成するには情報活用能力の育成も必須であるが、それについてどれだけの学校・教師が情報教育と言語活動を意識できているだろう。言語活動と情報教育は車の両輪のようなものであり、特に、コミュニケーション力育成に向けては「両輪」を強く意識する必要がある。しかし、学習指導要領においても情報教育においてもコミュニケーション力育成に焦点を当て体系化したものがない。学校独自、教師独自に体系化したものはあるかもしれないが、それでは「すべての学校」に通じない。いわば全国的な視野・立場に立ってこのことを解決していくことが喫緊の課題である。

このような考えに立ち、21世紀に生きる子どもたちに必要なコミュニケーション力(21世紀型コミュニケーション力)を全国的視野で追究していくことにした。

21世紀型コミュニケーション力とは、「主体的に情報にアクセスし、収集した情報から課題解決に必要な情報を取り出し、自分の考えや意見を付け加えながらまとめ、メディアを適切に活用して伝え合うことにより深めていくことができる能力」を意味する。

2. プロジェクトとして進めていること

(1) 統一した能力表の検討・作成

① コミュニケーション行為の分類と定義

各教科等において説明、論述、議論するといった学習活動を充実することがコミュニケーション力育成につながるとの立場から、コミュニケーションの行為をもとに「対話」「交流」「討論」「説得・納得」に分類するとともに各々の定義づけを行う。

② 一覧表の作成

分類した4つのコミュニケーション行為に共通した言語活動の具体を「聞く・わかる」と「話す」の2側面から捉える。そして、コミュニケーション行為の「初期」から「達成」までを段階的かつ系統的に整理する。このことによって「体系化」を具現できると考える。

(2) 各教科等のコミュニケーション学習活動の洗い出しと学習活動の具体例の作成

①国語科のコミュニケーション学習活動

言語活動と同様にコミュニケーション活動においても国語科が核になるとの立場から、小学校学習指導要領解説国語編をもとに21世紀型コミュニケーション能力表に埋め込むことができる学習活動を洗い出し、整理する。そして、ある学習活動を想定しながら、実際の学習活動を具体化・一般化するための学習活動案（学習指導案）を作成する。

②各教科等のコミュニケーション学習活動の洗い出しと学習活動の具体例の作成

国語科の例をもとに、各教科、領域におけるコミュニケーション学習活動の洗い出しと整理を行い、学習活動案を作成する。

3. 活用の仕方

(1) 21世紀型コミュニケーション能力表の活用

21世紀型コミュニケーション能力表を各学校・各教師に示すことにより、子どもたちに育成すべきコミュニケーション力を俯瞰してもらうことができる。

コミュニケーション力育成のためには各論ではなく（ある教科における取組ではなく）、総論として俯瞰したり展望を持ったりすること（すべての教科・領域からの取組み）が重要であることを知らしめることができる。

(2) 各教科等の能力表と学習活動案の活用

各教科等の能力表を各学校・各教師に示すことにより、学校全体としての考え方や取組み方について共通理解することができる。いわば全国の各学校で全教師が各々の立場からコミュニケーション力育成をめざす教育実践に資することができる。

特に、学習活動案を示すことで、これまでの学習指導の中でどういうことに意識したり留意したりすることがこれから必要とされるコミュニケーション力育成につながるのかといった教師個々の実践力に期待することができる。

4. 今後の展望

今後、能力表に則した小学校用教材テキストの開発を進める。この教材テキストは、実際に教員が日々の授業の中で活用できるような工夫をしていく。現在、小学校版について作業・検討を進めているが、発展的には、中学校版についても、同様の作業を行っていく予定である。